

ESVS 39th annual meeting 参加報告

山口大学医学部附属病院 血管外科 溝口高弘

この度、第 53 回日本血管外科学会 (JSVS) 学術総会にて最優秀賞を受賞した副賞として、第 39 回欧州血管外科学会 (ESVS) Annual Meeting に参加させていただきました。JSVS から演題推薦と渡航支援をいただき、このような貴重な機会を賜りましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第 39 回 ESVS Annual Meeting は 2025 年 9 月 23 日から 26 日まで、トルコ・イスタンブールの Congress Center にて開催されました。私は成田国際空港から直行便でイスタンブールに到着しました。およそ 13 時間のフライトを経て降り立った街は、アジアとヨーロッパの文化が交差する独特の雰囲気満ちており、会場周囲にはモスクの尖塔や石畳の街並みが広がり、歴史と活気が同居する魅力を肌で感じました。会場周辺にはアジアとヨーロッパを隔てるボスポラス海峡を望む美しい景観もあり、短い時間ながら異文化を体感することができました。

今回私は“Best abstracts of young vascular surgeons from national societies”セッションにおいて口頭発表をさせていただきました。演題は「Clinical Outcomes of EVAR First Strategy for Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm – Comparison with Open Repair Including Mid- and Long-Term Results –」であり、当科における破裂性腹部大動脈瘤に対する EVAR first strategy の成績を、開腹手術例と比較しつつ中長期成績も含めて報告いたしました。発表時間は 4 分、質疑応答 4 分であり、世界各国から選ばれた先生方と同じ壇上で発表できたことは大変光栄でありました。質疑応答では、EVAR の開腹手術との比較とそのメリットに関する具体的な質問をいただき、自身の研究の意義と今後の課題を改めて認識する機会となりました。

学会全体としては、シンポジウムやハンズオン形式のワークショップが中心であり、デジタルポスター形式の発表も取り入れられていました。採択率が非常に低い中、RCT や多施設前向き研究はもちろん、革新的な技術に関する質の高い演題が数多く発表され、世界的な研究水準を間近に感じることができました。特に、本邦からは EVAR 後の type II エンドリークに関する調査データや予防的塞栓に関する発表が多数行われ、全体的なセッションにおいても日本発の取り組みが注目を集めており、強く印象に残りました。

また、会期中には東京大学血管外科の白須拓郎先生が主催された、日本から参加された先生方との会食にも参加させていただきました。およそ 24 名もの先生方が出席され、ボスポラス海峡を望む素晴らしい景観の中でトルコ料理に舌鼓を打ちながら、親しく意見交換を行うことができ、大変有意義なひとときとなりました。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました JSVS 運営に携わる先生方および会員の皆様、日頃より多大なるご指導を賜っております当科の濱野公一教授をはじめ教室の先生方、さらに本発表の基盤となる EVAR first strategy を確立され、数々のご助言を賜りました関西医科大学血管外科の森景則保先生に、深く感謝申し上げます。今回の経験を糧として、今後の診療および研究活動に一層励んでまいります。



日本から出席の先生方と会場で撮影



発表の一場面



イスタンブールを象徴するガラタ塔